特別支援学校校舎の新改築の現状とこれから

鹿児島支部C班

1

鹿児島支部の特別支援学校における近年の大規模施設整備

新築移転
- 平成23年度　鹿児島盲学校新築移転
- 平成25年度　鹿児島養護学校新築移転
- 平成27年度　鹿児島聾学校新築移転

新築
- 平成25年度　串木野養護学校食堂兼教室棟新築

増改築・改修等
- 平成23年度　皆与志養護学校体育館床暖房設置
- 平成24年度　鹿児島高等特別支援学校開校
- 平成27年度　鹿児島高等特別支援学校寄宿舎改修移転

2

新築移転校の紹介　鹿児島盲学校

鹿児島盲学校

平成23年度新築移転

所在地　　鹿児島市西谷山
延床面積　9708㎡
総事業費　30億円

特色
全盲・弱視等の視覚障害のある児童生徒に対応

3

新築移転校の紹介　鹿児島盲学校

点字ブロック

4

新築移転校の紹介　鹿児島盲学校

二段手摺りと点字プレートの設置

5

新築移転校の紹介　鹿児島盲学校

段差がわかりやすい階段の配色

6

新築移転校の紹介　鹿児島盲学校

廊下の障害物をなくす工夫

新築移転校の紹介　鹿児島養護学校

鹿児島養護学校（知肢併置）

平成25年度新築移転

所在地　　鹿児島市吉野町
延床面積　16,843㎡
総事業費　約50億円

特色
肢体不自由・知的障害のある児童生徒に対応

新築移転校の紹介　鹿児島養護学校

ゴムチップを利用したグランド

段差がなく，車イスの生徒でも行動しやすいゴムチップのグラウンド

新築移転校の紹介　鹿児島養護学校

ゴムチップの中庭

ゴムチップで覆ってある中庭。段差がなく車イスの生徒でも移動しやすい

新築移転校の紹介　鹿児島養護学校

トイレ

空間を広く取り，介助しやすいよう介助スペースを設置したトイレ

新築移転校の紹介　鹿児島養護学校

蛇腹式の洗面台

水道の蛇口が蛇腹状で肢体不自由の生徒でも使いやすい洗面台

新築移転校の紹介　鹿児島聾学校

鹿児島聾学校

平成27年度新築移転

所在地　鹿児島市下伊敷
延床面積　10,170㎡
総事業費　約40億円

特色
聴覚障害のある幼児・児童生徒に対応

新築移転校の紹介　鹿児島聾学校

シグナルタワー　見える校内放送

始業や終業，その他の情報伝達のために，信号灯付電子音報知器（シグナルタワー）及び文字情報システムを設置

新築移転校の紹介　鹿児島聾学校

集団補聴システム

デジタル方式のワイヤレス集団補聴システムの導入

その他の新築校舎

串木野養護学校（食堂兼教室棟）

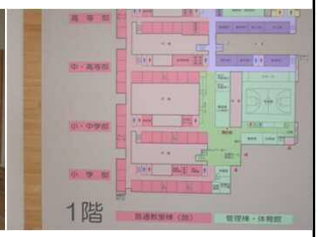
新築・増改築後に起こった問題（鹿児島養護）

校舎内で迷ってしまう

校舎内が広く，回遊性のある廊下により，似た景色が連続し，迷ってしまう児童生徒が多数いる

新築・増改築後に起こった問題（鹿児島養護）

校舎内で迷ってしまう



問題への対応（鹿児島養護）

位置を確認するための目印となる掲示

学部ごとにカラーを決めて廊下に目印となる掲示をすることで現在地及び目的地がわかりやすくなった

新築・増改築後に起こった問題（鹿児島盲）

点字ブロックのない食堂

食堂に点字ブロックがないため，介助なしで自分の席にたどり着くことが困難

問題への対応（鹿児島盲）

現在は仮の点字ブロック及び誘導線を設置している

正式な敷設を要望

↓

本年度内の整備が決定

新築・増改築後に起こった問題

車椅子では見ることができない鏡

教室やトイレの手洗いスペースの鏡が垂直に設置されており，車椅子の児童生徒は使用できない

問題への対応

新たな鏡の設置

トイレ前の廊下に車イスの生徒でも見られる鏡を設置

新築・増改築後に起こった問題

吊り下げ遊具取り付け金具

どの場所にも吊り下げ遊具を設置でき，頑丈な仕様であるが，パイプが太すぎるため，遊具の取り付けには専用の金具が必要

天井一面に太いパイプが張り巡らされている様子は非常に圧迫感を感じる

新築・増改築後に起こった問題

他校の吊り下げ遊具取り付け金具

天井の数カ所にリング状の金具を取り付けたシンプルな設計

問題の検証

予防できたはずの問題は，なぜ起こってしまうのか

主な原因は，学校と関係機関において，情報が相互に正しく伝達されていないことによる

問題の検証

設計段階での問題

① 学校現場からの意見や要望が設計する側に正しく伝わっていない

② 学校現場でも移転・増改築後の展望を具体的に描くことは容易ではない

問題の検証

施工段階での問題

① 原則，設計が決定してしまった後の変更はほぼ不可能である

② 工程会議に実際運用することになる現場職員は出席できないため，校内の連絡体制が整っていなければ，可能な細部変更の機会まで失う

問題を防ぐために

施工段階での変更は細部を除き，基本的に不可能であるので，設計段階で運用時までのしっかりとした見通しを立てなければならない

そのために

校内連携を強化し，検討委員会等を形骸化させることなく，迅速に学校としての意思統一をはかる

問題を防ぐために

要望を設計に盛り込むために，積極的に関係機関と連携をとる

ポイント

① 書面を交わし，記録を残す

② 調整役としての事務職員の役割が重要

改善が望まれる点

担当事務職員「幅広い知識，膨大な事務量」

負担の軽減が必要

↓

専任の職員を配置した準備室の設置

最後に

「 工事の終了 ≠ 施設の完成 」

生じた問題を職員が協力し，一つ一つクリアしていく

↓

「 真の完成 」

最後に

今後の施設整備のために

多所属間で，広く情報を提供・共有できるように，大規模な施設整備を経験した所属が，発生した問題の検証や対応策等を，しっかりと記録し，整理していく取り組みが必要である